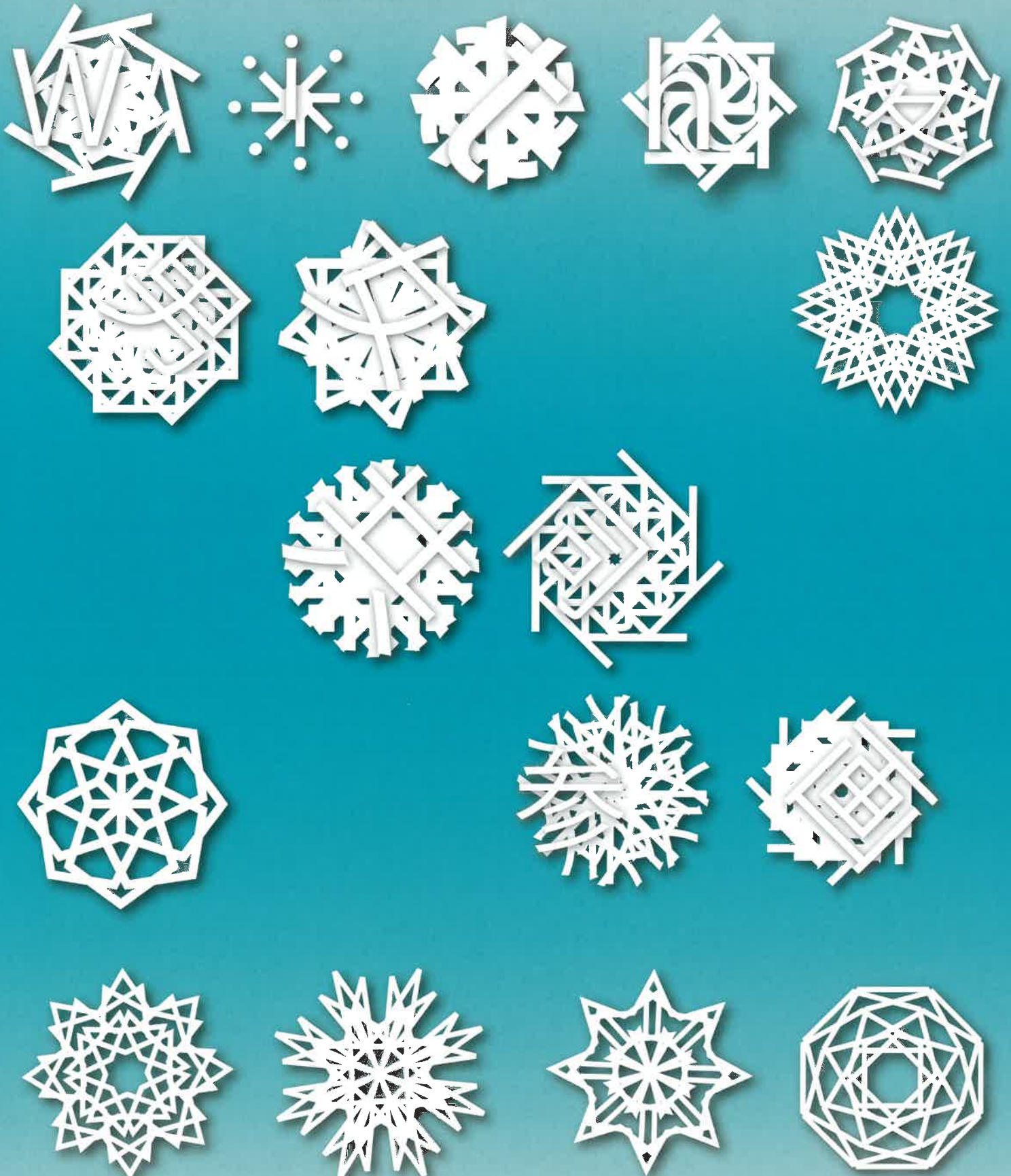


With

ウィズセンター情報誌
2011 winter vol.55



ウィズフェスティバル2010

開催特集

テーマ「育てよう 地域がそだつ 参画社会 ～すべての人にすべてのチャンスを～」

岡山県男女共同参画推進月間(11月)の行事として、「ウィズフェスティバル2010」が11月26日(金)・27日(土)の2日間、ウィズセンターで開催されました。

ウィズフェスティバル2010 PRイベント

10月から11月の間、ウィズフェスティバル2010実行委員会のメンバーが、岡山市内各地でウィズフェスティバルをPRしました。



10月15日 岡山駅前

11月6、7日 おかやまエコ&フードフェア会場(県総合グラウンド)



11月15日 ケーブルテレビOniビジョンの生放送番組「さん太DEライブ」に出演



窓には、登録団体やきらめきプラザ入居機関の皆さんからいただいた、鳩やハートの「参画メッセージ」が飾られ、会場を盛り上げました。



ウィズフェスティバル2010 オープニング セレモニー

11月26日、ウィズセンター入口で、出席者の皆さんのご協力をいただき「男女共同参画コース」の切り絵を完成させた後、くす玉が割られ、ウィズフェスティバルが幕を開けました。

本日は、多くの皆様にウィズフェスティバル2010にお越しいただき、心より感謝申し上げます。

今年度は、「育てよう 地域がそだつ 参画社会 ～すべての人にすべてのチャンスを～」をテーマに掲げております。男女共同参画の考えや意識は、少しずつ県民の皆様にもご理解をいただいておりますが、まだまだ十分とは申せません。現在、県や各市において、男女共同参画基本計画の見直しをされております。私たちも、今私たちに何ができるのか、何をすればいいのかと自分たちに問いかけながら活動を展開しておりますが、なかなか思うようにはまいりません。性別の違いや立場の違いを乗り越えて、お互いを認め合う社会、男女共同参画社会が実現すればと願っております。そして、次の世代へバトンタッチできる社会にしていきたいと考えております。

私たち21名の実行委員は、6月中旬より色々とお話を重ね、どのように皆様をお迎えしたら喜んでいただけるかを考えて本日を迎えました。今日は、お忙しい中、石井正弘岡山県知事をはじめ、池田武彦ウィズセンター運営委員長、ご来賓として岡崎豊

岡山県議会議長にお越しいただいております。また、この後行われる男女共同参画社会づくり表彰の表彰者の皆様方にもご参加いただき、大変うれしく思っております。

26、27日のわずか2日間のウィズフェスティバルではありますが、内容の濃いフェスティバルになったのではないかと自負しております。このフェスティバルを通して皆様方が何か1つでもチャンスをつかんでいただけたらうれしく思います。

最後になりましたが、ウィズフェスティバルの開催にあたり、多くの皆様方のご協力をいただきましたことを実行委員を代表してお礼を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。本日はご参加いただきまして本当にありがとうございました。

ウィズフェスティバル2010
実行委員会委員長
早川 美也子
(11月27日 記念式典あいさつから)



平成22年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰 (県知事表彰)

男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であり、今後も活躍が期待される個人及び事業者をたたえる表彰式が、平成22年11月27日にきらめきプラザで行われ、石井正弘県知事から表彰状と記念品が贈られました。

個人の部

(五十音順・敬称略)

| 氏名 | 住所地 | 役職 |
|-------------------|-----|-------------------------------------|
| いりえ ひろこ 入江 浩子 | 総社市 | 総社市ネットワーク“波”副会長 |
| さかもと ともこ 坂本 朝子 | 赤磐市 | 赤磐市男女共同参画推進審議会委員 |
| なかつか たかこ 中柄 榮子 | 備前市 | 備前市社会福祉協議会会長 |
| なかはら さとこ 中原 聡子 | 岡山市 | 元岡山市DV防止基本計画策定ワーキンググループ代表 |
| はた ひろし 秦 弘司 | 岡山市 | 元岡山市男女共同参画社会推進センター「さんかく岡山」運営委員会副委員長 |
| ひろおかき よこ 廣岡季余子 | 真庭市 | 参画まにわ副会長 |
| みやもと さちえ 宮本 幸枝 | 井原市 | 井原市男女共同参画ネットワーク監事 |



事業者の部

社会福祉法人日輪会 そうぎよくえん 特別養護老人ホーム宗玉園 (玉野市梶岡)

職員の採用、昇進等について、性別に関わらない能力主義を採用しており、正職員に占める女性の割合が高く、管理職に女性を積極的に登用しています。

また、24時間、365日対応の職員専用の託児施設の設置、3歳未満の子どもを養育する場合の育児短時間勤務制度や介護短時間勤務制度を設けるとともに、学校行事、冠婚葬祭、託児施設を利用する子どもの数・年齢等に配慮したきめ細かな職員のシフトを組むなど、仕事と育児・生活との両立を図る環境づくりに取り組んでいます。



今号の表紙

デザイン：岡山商科大学専門学校 ITデザインワーク科 川原祐介さん
(作品のコンセプト)

雪でシンボルを作りました。雪の結晶の中に「With」「男女共同参画」という隠し文字があります。実物で探してみてください。

わかりやすく、シンプルにしたのですが、何かおもしろいデザインにしたかったので、隠し文字を使用してみました。

2010年11月27日(土)開催

ウイズフェスティバル2010記念講演

ディレクターとしての多くのテレビ・ドキュメンタリー作品を制作し、1998年オウム真理教の信者を主人公とした映画「A」で高い評価を受けた森達也さんにお話をいただきました。



講演

世界はもっと豊かだし、人はもっと優しい

～森達也の見た世界はどのように私たちに響くのか～

講師

もり たつ や
森 達也さん(映画監督、作家)

ドキュメンタリー映画「A」が生まれた背景

フリーランスのTVディレクターが私の仕事ですが、番組製作の下請けの下請けというTV業界では末端の立場です。1995年に地下鉄サリン事件が起きたとき、TVニュースは朝から晩までオウムの特番、スポーツ新聞からは野球やサッカーの記事が消えるほどの過熱報道が続きました。オウムにはあまり興味はなかったのですが、生活のために事件を追い、オウム信者を被写体にドキュメンタリーを撮ろう、と取材を申し込んだところ、OKをもらったんです。そして、一般信者の生活を撮らせてもらったのですが、本当に普通の人たちでした。そのフィルムを放送局に持ち込んだのですが、TV的には「オウムが普通である」ということはNGだったようで、取り上げてもらえず、映画になったのです。

メディアによってあおられる危機意識

日本は極めて安全な国です。なのに、日本人はなぜそんなに不安がるのか？メディアによって危機意識をあおられているからです。人は「危ない」とか「怖い」状況に目を向けます。だからTVは危機をあおって視聴率を上げるのです。人々はオウムの事件によって不安と恐怖を植え付けられ、「悪」は肥大化し、厳罰化が進むという結果を招いています。

不安や恐怖が増幅するとどうなるか？たとえば、夜

道を一人で歩けないが、歩かないと家へ帰れないという状況が起きると武器を持ちたくなる、集団になりたくなる。チームを組み、Tシャツをそろえ、旗をつくり・・やがて、統治、管理という状況が生まれる。1999年以降の日本社会はみんなでまとまりたいという意識が強くなっています。

ノルウェーの刑務所の映像から

これはノルウェーの刑務所を取材した映像です。受刑者と刑務官が同じテーブルで食事をとっています。受刑者の部屋の冷蔵庫にはいろいろな野菜やデザートまで入っています。彼らは言います「日本の刑務所の暮らしでは社会に戻るの難しい」。ここでは出所後、スムーズに社会に適応できるよう環境を整え、再犯を防ぐようにしているのです。かつて、ノルウェーも



敵罰化の国でしたが、寛容化が進められてきました。受刑者の出所後のことを考え、身の回りのことを自立してできるように指導され、共同生活をする中で社会の基本ルールを守ることを学んでいます。家族と一緒に過ごせる休暇制度もあります。もちろん、被害者や遺族に対してのケアは十分行われています。

ノルウェーの法務省官僚のインタビューでは、「犯罪を犯す要因は、①幼少時の愛情の不足 ②生育時の教育の不足 ③現在の貧困の3つある。これらを補うことにより犯罪は無くなる。苦しめても犯罪は無くなりません。」と言われました。

このような政策の結果、再犯率はとても低くなり、治安もよくなりました。人口550万人のノルウェーの故殺は年間1件程度なんです。

不安と恐怖の結果

ノルウェーと日本の治安程度は、ほぼ同じくらい良いものです。しかし、メディアは視聴率を上げるため、購買部数を増やすため、人々の危機意識をあおります。オウム事件により私たちが出口のない不安と恐怖を持ってしまったため、どんどんその傾向が強くなりました。その結果、人はどうするか。「敵」をつくるのです。本当は治安も悪くないのに、どこかに邪悪で凶暴な敵がいると思いたい。この気持ちが国の外に向いたのが、「仮想敵国」、国内に向くと「犯罪者」になります。こうした意識は、警察、検察の捜査権力への強い加速を期待します。だから、以前だとおそらく無罪になっていたであろう事件が、有罪になりかねないのです。

異物を排除する日本

また、人は少数派を見つけ、それを排除し、攻撃しようとする。異物を排除することで、自分たちが多数になろうとするのです。学校のいじめの構造と同じです。みんなと同じでなければならない、管理して欲しい、統治して欲しいのです。

特に日本人は、その傾向が強いと思います。

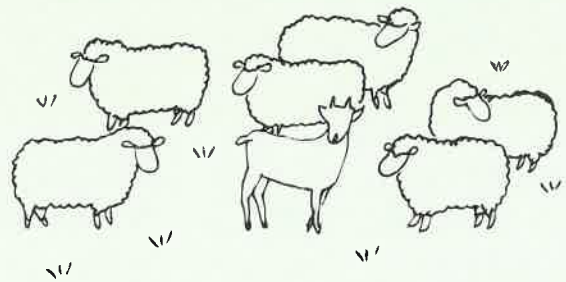
しかし、異物は必要です。よく外国で「日本の部落差別とは何だ？」と質問されます。生まれが違うこと

だと答えると呆れられますね。世界の戦争は、ほとんどは民族か宗教が原因です。そんな理由で戦争になることも論外ですが、論外な彼らからしても日本の部落差別は、意味の分からないものなのです。何の根拠もない。ではなぜ部落差別があるのか。それは、自分たちと違う異物を置いておくためです。部落でもいい、オウムでもいい、男女でもいい、異物を置くと自分たちが多数派になって、安心できるのです。まず、ここから直視しなければなりません。

大義や正義、愛する人を守るためには、人は人を際限なく殺せます。気を付けなければならないのは、悪意ではなく善意です。自分の中の善意、集団の暴走という部分に意識を持てば、もう少し社会も通じ合い、不幸な事件も減るのではないかと考えています。

異物は必要だということをモンゴルで放牧されているヒツジとヤギを例にお話しされました。

「モンゴルでは、ヒツジの群れの中に必ずヤギがいます。ヤギは「異物」ですが、ヒツジを草のある場所に導くという大切な役割を果たしています。」



参加者の感想

- 普段の自分の思考や価値観が幅の狭いものであったか考えさせられました。
- これまで文章でしか接することがなかった森さんの言葉を聞くことができ大変有意義でした。自力で考えることの大切さをあらためて認識しました。
- 社会の多様性を守り育てる大切さを痛感しました。そのためには個々人が自分を大切にすることで、それが男女共同参画を進めるポイントだと思いました。

2010年11月17日(水)開催 **実行委員会自主企画 講演会**

「日本女性監視機構」代表として、「国連婦人の地位委員会 (CSW)」に参加してこられた経験をもとに、男女共同参画社会へ向けての国際的な動きや状況を詳しくお聞きすることができました。

講演 **国連・第4回世界女性会議**
北京から15年～私たちの課題～

講師 ^{はら} ^こ **原 ひろ子**さん(城西国際大学客員教授、日本女性監視機構顧問)



女性に対する暴力への認識の変化

世界の女性たちにとって大切なのは「女性差別撤廃条約」と「北京行動綱領」。日本の男女共同参画施策は外圧によって進められてきたというのが現状です。1999年に男女共同参画社会基本法ができたのも北京会議のおかげ。「女性に対する暴力」については国連特別総会女性2000年会議で大きく取り上げられました。2000年会議が始まる前は日本では配偶者暴力防止法を作る必要はないとの考えでしたが、女性に対する暴力撤廃月間の今日、国会議事堂の門衛に至るまでパープルリボンを付けています。パン・ギムン国連事務総長もとても大切なことだととらえておられます。

北京+15をめくって

大きな会議があるときは1年前からニュースが流れてきます。世界5地域に国連機関があり、そこでも会議の準備が進められます。並行してNGOでも準備が進められますが、国連の会議の中でも最もNGOの参加が多いのがCSWです。日本政府代表団の中には多くの省庁が含まれますが、参加しない省庁もあります。今後特に参加してほしいのは経済産業省。国際競争に立ち向かう中で、女性の労働力を有効に活用するという意味でも、経済分野の政策に男女共同参画の概念を取り入れてほしいと思います。

世界5地域の国連機関

- アフリカ経済委員会 (ECA)
- ヨーロッパ経済委員会 (ECE)
- ラテンアメリカ・カリブ経済委員会 (ECLAC)
- アジア太平洋経済社会委員会 (ESCAP)
- 西アジア経済社会委員会 (ESCWA)

国連会議へのNGOと女性の参加

北京+15を記念するハイレベル会議となった第54回国連婦人の地位委員会では、日本からNGO参加者と政府代表団との意見交換会が行われました。このような会議にNGOや女性が参加するようになったのは、市川房枝さんの折衝によるもの。英語力を買われ、市川さんから国連総会への参加を薦められた中村道子さんが、自分にできることをしようと各国からの参加者の発言メモを翌日に配布し、政府役人から「中村メモ」として重宝されたという逸話があります。

「男女共同参画社会」とは『女が男並みになる』ということではなく、男女が人間らしく稼ぎ、楽しみ、生活すること。国の第3次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方の答申には「男性、子どもにとっての男女共同参画」が盛り込まれていますが、国連においても5年ほど前からテーマとなっています。

国連・世界女性会議の流れ

- 1975年 第1回 メキシコシティ
- 1980年 第2回 コペンハーゲン
- 1985年 第3回 ナイロビ
- 1995年 第4回 北京
- 2000年 国連特別総会2000年女性会議 NY
- 2005年 国連「北京+10」閣僚級会合 NY
- 2010年 国連「北京+15」記念閣僚級会合 NY

語句については内閣府男女共同参画局のホームページをご参照ください。
内閣府男女共同参画局 (<http://www.gender.go.jp/>) > 公表資料 > 用語集

参加者の感想

- 日本の男女共同参画が前進してきた過程がわかり勉強になりました。
- 男女共同参画をグローバルな視点でとらえ、世界的な組織・法律の中で考えることも大切だと感じました。

ワークショップ
「幸せを育むすてきな人間関係」

講師：萩尾 寛江さん
(米国ウィリアム・グラッサー協会認定スーパーバイザー)
主催：よりよい人間関係を学ぶ心理学 (CTくらぶ)

幸せに結婚している夫婦は世の中に5~10%、努力して関係の良い夫婦が10%、親子関係は夫婦関係に比例しています。そのためにはどうしたらよいか、パズルを2種類使いながら、講師の体験を交えて2時間楽しく学びました。

生活を同じくしていれば相手のことがわかった気になるため、相手の話をよく聞かないので問題が起こること。人は生まれながらに5つの欲求(愛・所属、力、事由、楽しみ、生存)があり、それを満たそうとするが、相手の欲求充足の手伝いも大事だということ。脳の中にある個人のユートピアを聞くことが大切だということ。そして、人それぞれ



みんな「常識」が違うことをわかりやすく話されました。
人間関係がうまくいかない時は、自分の欲求充足ができていないのか、相手の欲求充足を妨げているのか、現実と感じている世界やお互いのユートピアが一致しているか確認することが必要だとのことでした。

海外研修報告
「メルバ!トルコブルーに酔いしれて」

ゲスト：アリ・ピンギョルさん
(岡山トルコ文化センター代表)
主 催：おかやま女性国際交流会

海外研修で訪れたトルコの報告を行いました。楽しく、わかりやすく皆さんに伝えることをコンセプトに、映像を使ってのプログラムを組みました。トルコ土産のCDを写し出すと、会場は一気にトルコブルーに染まりました。その会場に、岡山トルコ文化センター代表のアリ・ピンギョルさんが登場し、「2010トルコにおける日本年」について映像をまじえて説明がありました。続いて、海外研修参加会員がCDを使って、イスタンブール新聞協会女性部との交流・ホームステイ・ホームビジットなど報告しました。Q&Aでは、日本とトルコの友好関係の歴史についてのほか、トルコ女性のかぶり物を通してイスラム圏の女性の生き方について質問があり、アリ代表が、プライベートでは自由だが、やはり外出にはかぶり物が必要と答え、世界にはまだまだ生きにくい女性たちの存在があることを知りました。



講演会
「こころの健康・からだの健康」

講師：江里 美代子さん
(日本赤十字社岡山県支部健康生活支援講習指導員)
主催：(財)岡山県母子寡婦福祉連合会

江里美代子さんをお迎えして、「こころ健康・からだの健康」について講演を行いました。

受講者の方々がそれぞれペアを組み、相手の肩や背中に両手をあてて、静かに語りかけながら、優しくなでるという実習をしていただきました。

日頃の心身の疲労が解けていくようで、家族や親しい間柄の人には、このリラクゼーション効果が得られるスキンシップをしてあげたいと思える温かい講演でした。



リレートーク
「65年のハーストリー
～リレートークと映像で振り返る～

トーク1部：「時代を拓いた三人の女性～憲法・参政権・均等法～」
坂本 朝子さん 寺田 和子さん 笹井 敏恵さん
2部：「バトンを受け継ぐ私たち～3つの会議から～」
小林 鈴代さん 高村 幸子さん 坂根 阿喜子さん
主 催：イースト岡山女性ネットワーク/14期岡山県女性のパス

戦後の男女平等を切り拓いてきた3人の女性の功績、ベアテ・シロタ・ゴードンさん(日本国憲法第24条)、市川房枝さん(婦人参政権)、赤松良子さん(男女雇用機会均等法)と3つの会議、1995年北京会議、1997年日本女性会議おかやま、2000年ニューヨーク会議にスポットを当て、それぞれの画像と6人のリレートークで私たちの歩んできた道のりを振り返りました。

リレートークでは職場の同僚の理解と後押しで働き続けられたこと、女性会議の実行委員会では連日連夜の意見交換で当日を迎えたことなど、それぞれの立場からの体験談や懐かしい画像に参加した人たちは、熱心に耳を傾け、「歴史を学ぶことは大切ですね」という声も聞かれました。



シンポジウム・フォーラム
「知ろう！学ぼう！法と女性」

話題提供：「私のお父さんはだ～れ？お母さんは？
～生殖補助医療について一緒に考えてみませんか～」
近藤みち子さん
「知らない間にあなたも加害者？
～人身売買と売春防止法制定から50年～」
川上紀代子さん
「親告罪・抵抗の証明 これってあり？
～レイプ犯罪の課題～」 大倉 美恵さん
主 催：(社)大学女性協会岡山支部

会員が、「さんかくカレッジ法と女性コース」で学び小論文にした内容を中心に、新しく入手した情報も加味して発表しました。パワーポイントでのプレゼンテーションは分かりやすく、また、質問形式の作業ノートによる投げかけも参加者の意識を呼び起こすのに役立ちました。フォーラムでは、どのテーマについても参加者からの質問や意見、各自のもつ情報提供があり、活発な意見交換ができました。

法律という堅い分野でありながら、60名余の方たちの参加を得たのはうれしいことです。男性参加者が3名だったという状況は、男性の意識の改革が重要な課題である日本において、これからも男性への働きかけが課題になると考えます。



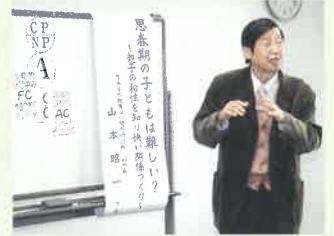
講演会
「思春期の子どもは難しい？
～親子の相性を知り、快い関係づくり～」

講師：山本 昭一さん
(NPO法人日本交流分析協会)
主催：日本交流分析協会岡山T A研究会

講師の山本昭一先生は、32年間の高校教員としての経験を生かし、中高生サポートの立場でご活躍されています。7年前から「質問紙エゴグラム」を研究中のことと、その成果を活用しながら、とても温かな語り口で、説得力のあるお話をしてくださいました。

受講者は、それぞれエゴグラムのグラフを作成し、その作業を通じて、自分や子どものパーソナリティについての「気づき」を体験しました。

また、思春期男女の脳の発達等についての説明も交えて、親子の関わりかたのコツも教えていただきました。「依存」と「自立」を繰り返す、子どもの本音を示す思春期特有の行動のお話もなるほどと感心しました。具体例による質問も出て、受講者は最後まで熱心に聞き入っておられました。



カフェ
コーヒー・紅茶でホットとひといき
「サロンDE なごみカフェ」

主催：岡山地域ピーチの会

ウイズセンターの閲覧コーナーのテーブルが、クロスとテーブルフラワーでカフェコーナーに早変わり！コーヒーの香りとクラシックBGMでなごみのひと時を提供させていただきます。

訪れた皆さんは、コーヒーを飲みながら、おしゃべりもはずみ、久しぶりに会った人や仲間たちと楽しい時を過ごされたようでした。中には、ワークショップに参加し、初めて会った人と意気投合してカフェに足を運んでくださった方もいて、ささやかながら交流の場として利用していた、主催者にとっても楽しいひと時となりました。



手づくりのクッキーも「おいしい！」と好評でした。

手作り体験
「あなたとわたし 今・一人からはじめる日常環境」

主催：イーブくらしきネットワーク

今、エコが叫ばれています。私にできることって何だろう？今、一人からでも出来るエコってなんだろう？と考え、誰にでもすぐに作れて、毎日使える、糸で作った「アクリルたわし」や「はたき」のワークショップを開催しました。アクリルたわしは、洗剤を使わなくても汚れを落とす環境に優しいたわしです。参加者の方の中には、以前は使っていたが、今は使うのをやめている人もおられ、あらためて環境問題を考えるきっかけになったのではないかと思います。



簡単に作れますよ★

**DV支援チャリティーバザー
「ルン!ルン! みんなでバザーを楽しもう
—私のきもちをあなたのきもちを…」**

主催：NPO法人さんかくナビ

バザー開店直後から、途切れることなく他団体の催し物等にご参加くださった約150の方が立ち寄り買ってくださいました。中でもセルフグループが制作した手作りアクセサリーが人気でした。

当日は、来場者の方に、紫色のリボンが付いたカードにメッセージ書いていただき、女性に対する暴力根絶運動のシンボルであるパープルリボンにちなんで、「パープルツリー」を作りました。



バザーには、多くの方が品物をご提供くださり、格安の値段で販売できたので、皆さんにも喜んでいただき、楽しんでいただけたと思います。



活動の枠を越え、多くの方々と一緒にできたこのバザーは、意義のあるものとなりました。この収益を、被害当事者とその子どもたちのために使わせていただきます。

登録団体交流会

ウィズセンター登録団体のうち25団体47名が参加し、なごやかに交流会が開かれました。参加団体の自己紹介に続き、男女共同参画クイズが行われ、最後まで勝ち残った5名の方には、お菓子入り手作りメダルが贈られるなど、楽しいひとときとなりました。



パネル展示

ウィズフェスティバルの期間中、ウィズセンター内で、登録団体の活動を紹介するパネルが展示されました。各団体とも工夫をこらし、いずれも目を引く出来映えで、多くの方が足を止めていました。

(出展団体)

- 岡山県交通安全母の会連合会
- おかやま女性国際交流会
- 岡山市婦人防火クラブ連絡協議会
- 世界女性会議岡山連絡会
- (社) 大学女性協会岡山支部
- イープくらしきネットワーク
- (社) 被害者サポートセンターおかやま
- 岡山県退職女性教職員の会
- 新老人の会岡山支部
- (財) 岡山県母子寡婦福祉連合会



ウィズフェスティバル2010実行委員



| | |
|--------|---------------------|
| 石原 明子 | 県女性のバス13期生 |
| 内田 千代子 | フォーラム2000まび |
| 大月 基史 | 公募 |
| 金谷 安子 | イーブくらしきネットワーク |
| 坂本 朝子 | イースト岡山女性ネットワーク |
| 佐藤 恵子 | (財) 岡山県母子寡婦福祉連合会 |
| 三近 光 | メンズリブフォーラム岡山 |
| 清水 依久子 | スペシャルオリンピックス日本・岡山 |
| 谷 博子 | (社) 被害者サポートセンターおかやま |
| 土屋 瞳 | フォーラム2000まび |
| 寺脇 孝子 | 岡山地域ピーチの会 |
| 中桐 美和子 | (社) 大学女性協会岡山支部 |
| 中島 知子 | 公募 |
| 仁志 恵子 | 岡山県生活学校連絡協議会 |
| 萩尾 寛江 | よりよい人間関係を学ぶ心理学 |
| 早川 美也子 | イーブくらしきネットワーク |
| 藤井 啓子 | おかやま女性国際交流会 |
| 真壁 美智子 | ゆうあいセンター |
| 万代 寿代 | おかやま女性国際交流会 |
| 村岡 知子 | 新老人の会岡山支部 |
| 山本 敬子 | 男女共同参画ゼミナール修了者 |

国連の新しいジェンダー機構 UN Women

国連には女性関係の機関が4つありました。国連女性の地位向上部(DAW)(世界女性会議、国連女性の地位委員会及び国連人権理事会設置までの女性差別撤廃委員会の事務局)、国連女性開発基金(UNFEM)(第1回世界女性会議後1976年設置)、国際女性調査訓練所(INSTRAW)、ジェンダー問題と女性の地位向上に関する国連事務総長特別顧問事務所(OSAGI)(第4回世界女性会議の翌年1995年設置)です。これらを統合し、新しく国連のジェンダー機構が設立されました。

NGOはジェンダー平等機構改革キャンペーンを3年前から行い、各国政府へ新組織に対する支援要請、担当事務次長の候補者提供などを行いました。その結果、2010年3月の第54回国連女性の地位委員会では「国連の新しいジェンダー組織の設立推進」決議案が、国連加盟国192カ国中180カ国が共同提案国になり提出されました。そして、7月2日の第64回国連総会本会議において採択された決議「システム全体にわたる統合力」で、ジェンダー平等関係4機関の統合による新機関の名称を「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関」(UN Women)とし、理事会の設立が決まりました。

これを受けて、7月30日、国内の3つのネットワーク(国連NGO国内委員会、国際婦人年連絡会、日本女性監視機構)は、岡田外務大臣(当時)あてに「ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関(UN Women)支援についての要望書」を提出しました。日本は共同提案国にはなりませんでした。11月にアメリカ、イギリス、インドネシア、韓国、ブラジルなど41カ国とともに、任期3年の執行理事国に選出されました。

2011年1月1日、「UN Women」は初代事務局長に前チリ大統領のミシェル・バチエレさん(Ms.Michelle Bachelet)が就任して歩みを始めました。

(文:世界女性会議岡山連絡会 時實達枝さん)

参加者募集中

元気な心で元気な毎日 ~心のリフレッシュ術~

- 講師: 鎌田 敏さん(こころの元気配達人 こころ元気研究所所長)
- 日時: 平成23年3月12日(土) 13:30~15:30
- 場所: きらめきプラザ401会議室

募集人員は30名(先着順)で、参加費は無料。託児(6カ月から未就学児)を希望される場合は、事前の予約が必要です。参加のお申し込みは、講座開催日の1週間前までに、電話、ファックス、Eメール、郵送で、①参加講座名、②お名前(ふりがな)、③ご連絡先電話番号をお知らせください。

お申し込み先

岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)
〒700-0807
岡山市北区南方2-13-1 きらめきプラザ6階
TEL: 086-235-3307 FAX: 086-235-3306
E-mail: danjo@pref.okayama.lg.jp



ご相談ください

パープルダイヤル ー性暴力・DV相談電話ー

電話番号 **0120-941-826** ※通話料は無料です。

電話受付期間 平成23年2月8日(火)午前10時から3月27日(日)午後10時まで
※期間中の初日、最終日を除き、原則24時間いつでも相談可能です。

活躍した岡山の女性たち(その3)

女性として先駆的な活躍をした岡山ゆかりの先人をその顕彰碑とともにシリーズで紹介していきます。今回は、農作業をしながら、詩をつづり、女性解放を目指した永瀬清子です。

～永瀬清子(ながせきよこ)～

1906年(明治39)～1995年(平成7)

赤磐郡豊田村松木(現赤磐市松木)に生まれる。2歳のとき、父親の赴任先である石川県金沢市に転居。1912年、石川県師範学校附属小学校に入学する。1918年、石川県立第二高等女学校に入学。国語教師より短歌の指導を受ける。1922年、名古屋市に転居し、心ならずも裁縫塾に通う日々を送る。その後、『上田敏詩集』を読んで、自由詩に開眼、詩人を志す。1924年、愛知県立第一高等女学校に入学。詩も書き始める。1927年、結婚。会社勤務の夫に、生涯、詩を書くことを認めてもらい、大阪市に新居を持つ。1928年出産の長女を頭に2男2女を育てながら詩作に精進。1930年、第1詩集『グレンデルの母親』発行。1945年、夫の復員とともに豊田村の生家に転居。田の耕作を始める。詩作活動を続けながら、同人誌『黄薔薇』や『女の新聞』『女人随筆』などを創刊。1965年、岡山市南方に転居。1987年、詩集『あけがたにくる人よ』で、地球賞、ミセス現代詩女流賞受賞。1995年、89歳でこの世を去るまで、農業をしながら詩作、講演など精力的な活動を通して女性解放運動にも尽力した。

(井久保伊登子著『女性史の中の永瀬清子』(戦前戦中篇、戦後篇)の「略年譜」から)



熊山橋西詰め(赤磐市河田原)に建つ永瀬清子の詩碑「熊山橋を渡る」

ウィズセンター所蔵 永瀬清子関連図書



「あけがたにくる人よ」



「すぎ去れば すべてなつかしい日々」

映画のつどい

多くの方にウィズセンターを知っていただくため、「映画のつどい」を開催しています。



参加費無料

これからの映画のご案内

2月24日(木) 13:30～15:50

「植村直己物語」

3月24日(木) 13:30～15:30

「ホーム・スイートホーム」

4月28日(木) 13:30～15:30

「私の頭の中の消しゴム」

参加のお申し込みは、ウィズセンターへ
(TEL 086-235-3307)

～ウィズセンター・情報コーナーから～
これらのDVDは個人への貸し出しもできます。
(一人2本、1週間まで)

ウィズライブラリー ～新着図書より～



『大塚女子アパートメント物語 オールドミス館によろこび』

・川口明子 著
・教育史料出版会(2010年)

1930年、働く職業婦人のために建てられたアパートメントでそれぞれの人生を生きた女性たちの73年の物語。



『ノルウェーを変えた 髭のノラ 男女平等社会はこうしてできた』

・三井マリ子 著
・明石書店(2010年)

世界でもトップレベルの男女平等社会を実現したノルウェー。先進的な社会制度の中、様々な分野で活躍する女性たちの姿を描く。

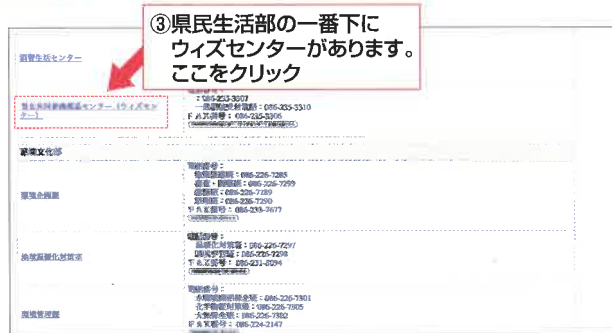
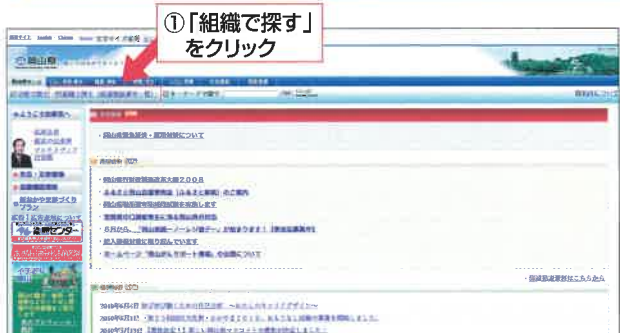


ウィズセンターは**土・日曜日**も開館しています。
お気軽に、お越しください。

講演会や講座の情報を素早く皆さまにお届けします。

●ウィズセンターのホームページをご覧ください。

岡山県ホームページ
(<http://www.pref.okayama.jp/>) から



●メールマガジンにご登録ください。

毎月1回、ウィズおかやまかわらばんをお届けします。
件名を「メルマガ希望」として、本文に住所、氏名を明記の上、
電子メールでお申し込みください。
iモード対応版もあります。

お申し込み先メールアドレス：danjo@pref.okayama.lg.jp



ウィズセンター運営委員会の情報もホームページで

ウィズセンターの事業や運営に意見や提案をいただいている運営委員会の議事概要をホームページに掲載しています。また運営委員会を会場で傍聴していただくこともできるようになりました。次回運営委員会の開催は、平成23年3月15日(火) 13:00～、場所はウィズセンター会議室です。

ウィズセンターはこんなところ

開館時間 火～土曜日 / 9:30～20:00
日曜日 / 9:30～17:00

休館日 月曜日・祝日・年末年始

- 情報提供**
 - 図書・ビデオの貸出
 - 人材情報・各種団体の活動情報の提供
 - 男女共同参画に関する資料の閲覧
- 各種講座**
 - 男女共同参画に関する各種講座の開催
- 相談**
 - 相談員による一般相談
火～土曜日(祝日を除く) 9:30～17:00
(受付は16:30まで)
 - 特別相談(予約制)
弁護士による法律相談 原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談 原則第1・3金曜日
 - 相談専用電話 ☎086-235-3310
- 就業支援**
 - 就業に役立つ講座の実施
 - 就業に関する情報の提供
- 交流**
 - 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供
- 広報**
 - 情報誌の発行(年4回)
 - メールマガジンの配信(毎月)



ウィズ冬号 (Vol.55) 2011年2月発行
編集・発行 / 岡山県男女共同参画推進センター(ウィズセンター)
〒700-0807 岡山市北区南方2丁目13-1
きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階
TEL (086) 235-3307(代) FAX (086) 235-3306
Eメール: danjo@pref.okayama.lg.jp

講座等のお申し込み、お問い合わせ、ご意見は、ウィズセンターへ

(切り取って保存用にお使いください)